



ほけんだより

2023年5月2日
佐原めぐみこども園
病後児保育室めぐみ

新年度が始まり、1ヶ月が経ちました。年度始めは、環境も変わり疲れが溜まっていると体調を崩しやすくなります。園でも鼻水や目やにがでている子が増えてきました。引き続き子どもたちの体調の変化には気をつけてまいります。今回は、目やにが主な症状である「結膜炎」についてお伝えします。

<結膜炎>

たかが目やにと思われがちですが、目やにが主症状である結膜炎のなかから、流行性角結膜炎（はやり目）と細菌性結膜炎があります。



うつる結膜炎・・・流行性角結膜炎（はやり目）

アデノウイルスに感染することで起こり、「ゴロゴロした目の痛み」「目やにがでる」「涙がでる」「目が充血する」などの症状が現れます。特効薬がなく、炎症を抑える点眼薬や細菌感染を予防する抗菌薬の点眼薬が使われます。自然に治るまで1～2週間ほどかかり、非常にうつりやすいので、家族全員で予防しましょう。

学校安全法で学校感染症に指定されているため、**医師の許可が出るまでは登園、登校できない**と定められています。登園する際には、**医師の記入する「登園許可の関する意見書」**が必要になります。



うつらない結膜炎・・・細菌性結膜炎

細菌結膜炎は細菌に感染することで起こる結膜炎で、結膜炎の中でも最も多く見られる病気です。「目やにがでる」「目が充血する」などの症状が現れ、点眼薬で1週間以内に良くなるケースが多いです。

感染予防対策は、基本的に手で目をこすらない、手をこまめに洗う。流行性角結膜炎の人とタオルなどを共用しない、流行性角結膜炎の人は最後に入浴する。（お湯を通して感染します）ご家族や園で流行させないためにも、どちらのタイプか確認することが大事ですので、目やになどの症状がでたら正しく診断してもらうためにも、眼科の受診をおすすめします。

登園前に健康チェックをしましょう

朝、お子さんが元気か、体調不良のサインは出ていないかをチェックしましょう。目や鼻、耳、口、皮膚など、体の中と外をつなく部分は異変を見つけやすいので、しっかりチェック。当てはまることがあるときは、職員にお知らせください。

目： 目やにが増えた 目が赤い 涙目になっている

耳： 耳を触る（気にするそぶりがある） 耳だれがでる

鼻： 鼻水・鼻づまりがある くしゃみが出る

皮膚： ポツポツができてい 水ぶくれや膿んだ場所がある 赤くはれている

おしっこ・うんち： 回数や状態（色やかたさなど）、においがいつもとちがう（すっぱいにおいは消化ができていない）



※目に見える症状がなくても、「いつもより機嫌が悪い」「なんとなく元気がない」「食欲がない」など、気づいたことがあったら、朝の登園時に職員にお伝えください。

～園からのお願い～

- 発熱後の登園は、**解熱剤を飲まずに解熱後 24 時間**はご自宅で様子を見て頂きますようお願いいたします。解熱後 24 時間を経過していない場合はお預かりができませんのでご了承ください。
- 兄弟児が体調不良のときは、感染防止の観点から登園を控えて頂きますようご協力をお願いいたします。
- 爪が長いと引っかかり、おともだちをひっかいてしまったり、思わぬけがを招きますので、爪は 1 週間に一度チェックしてこまめに切りましょう。

～お薬について～

薬の服用については、基本的に事故防止の観点から園では、ご遠慮させていただいています。しかし、抗生剤や医師の指示がある場合など、特別な場合に限りらせていただいております。**処方を受ける際に、可能な限り家庭での与薬となるように、主治医にご相談してください。**

薬を依頼する場合

- 『与薬依頼書』に、薬の説明書(コピー可)を添えて職員に提出してください。押印が必要になります。
 - お薬は、1 回分ずつ小分けにし、日付、名前を書き、その日に与薬する分のみ職員に手渡ししてください。
- ※シロップ薬も 1 回分、空の容器を洗い、よく乾燥させたものや百円ショップなどで市販されているお弁当用の「醤油入れ」などでも代用できます。
- 市販薬はお預かりできません。

<気管支拡張剤の貼り薬についての注意事項>

風邪や喘息で息苦しさを改善するために、気管支拡張剤である**ホクナリンテープ**や**ツロブテロールテープ**などが処方されることがあります。

- 登園時に必ず口頭でお伝えいただき、職員と貼ってある場所を目視で確認してください。
- 貼り薬には名前を記入して、子どもの手の届かない場所や他の子どもに見えないように、**背中などに貼って**ください。
- 内服薬と同じ扱いになりますので、『与薬依頼書』と薬の説明書が必要になります。
- 一度剥がれた張り薬を貼りなおすことはできませんので、降園時に返却させていただきます。
- 汗をかいたり時間が経つと、はがれやすくなります。はがれて床に落ちると、小さい子どもが誤飲してしまう危険があります。汗をかきやすい季節などは、はがれないように貼り薬の上から、テープや絆創膏を貼ることをお勧めします。

ご不明な点がありましたら、看護師 香取までお声かけください。
かかりつけ医に受診した上で、ご自宅療養か症状によっては、病後児保育も利用できますので、お気軽にご相談ください。 ☎ 070-1455-0167（8時～17時）